

さいとう けんたろう

齊藤 健太郎

経済学部 教授
 博士(経済史学)/PhD/
 ケンブリッジ大学

ホームページ URL
 なし

主な研究業績

<論文>

■ 'Industrial Contraction and Union Structure: The Nottingham lace Industry and the union merger in 1933', *The East Asian Journal of British History*, Vol.3, pp. 53-75, 2013.

■ 'Deskilling or Reskilling?: Toolmakers and the Engineering Industry in Interwar Britain', Kentaro SAITO, *The Korean Journal of British Studies*, Vol.28, pp.357-84, 2012.

<国際学会>

■ 'Two integration processes in the labour market of skilled workers: British engineers, 1865-1914', Annual Conference of Economic History Society, 2018, at Keele University, UK

■ 'Labour market development and skill-standardization in Modern Japan: Skilled workers in building industries and vocational training', World Economic History Congress 2018, Boston.

研究テーマ Research theme

近現代の日本とイギリスを対象に 労働の制度的・市場的諸局面を研究している。

概要 Overview

現代生活を支える様々な財やサービスの多くは市場を通じて獲得されます。一方、洋の東西を問わず、有史以来の産業化の過程の多くは市場領域の拡大・浸透の過程とみなすことができます。産業化と近代化とともに、私たちの生活に及ぼす市場の影響はますます大きくなっています。市場システムがいかに動くかということが、私たちの生活水準にとって重要な要因なのです。この研究は、このような市場の発展に関するものです。特に近代化の時期の日本と欧米の地域間市場統合を取り上げ、労働市場統合、労使関係史、熟練形成と訓練・教育などを通して、広く生活水準変動について研究しています。

市場が統合することにより、地域間における物価や賃金といった経済指標に安定した関係が形成されると予想されます。ここから、地域間の市場が統合することにより、様々な生活資材へのアプローチが容易かつ安定的になるという仮説が得られます。つまり、市場統合の進展と生活水準の上昇が正の相関関係をもつという考えです。ここから、生活における様々な危機—労働条件の悪化のような社会的・個人的な危機から、飢饉や水害・地震のような自然による危機まで—においても、市場システムが効果的に動くかどうか、その克服にとっての大きな鍵であることが理解されるでしょう。

近年は、近代日本および欧米の賃金・物価など市場に関わるデータを収集し、地域間市場統合と生活水準・生活危機との関連を統計的に分析しています。生活水準に関しては、疾病・衛生問題の専門家との連携も取りながら、より広範な議論の構築を目指しています。また、過去の諸事実の探求の意味を考え、その方法を拡大するために、歴史学方法論について考察しており、ゲーム論・経済学実験の研究者との連携も進めています。

応用分野 Application areas

生活環境・危機管理

共同研究等へのニーズ Need for joint research

労働市場の近代化に関する研究では、人的資本の形成をめぐる教育史研究者との共同研究を行った（「労働市場の近代化と人的資本形成に関する比較史的研究（科学研究費・2018年完了）」）。

また、歴史学の方法に関してゲーム理論研究者と共同して「実験歴史学の構築に向けて（科学研究費・2019年完了）」などを行っている。また、現在は格差社会に関する国際的な研究フォーラム「不平等と不安定性の国際比較 日英格差社会をグローバルな視点から読み直す（科学研究費、2019年）」に研究分担者として参加中であり、国内外での共同研究を念頭に研究を続けている。